

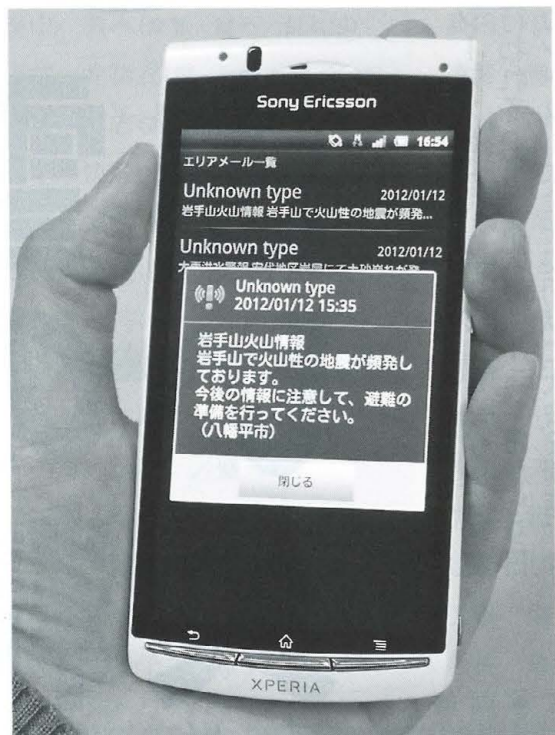
1/20

運用開始

NTTドコモの携帯サービスを利用した

市の災害情報配信

●詳しくは、市役所総務課地域安全係(☎・1215)まで。



エリアメールを受信したら内容を確認し、慌てずに行動してください(写真=エリアメールの画面表示イメージ)

市は、1月20日からNTTドコモが提供する緊急速報サービス「エリアメール」を使い、市内の災害情報などを伝える取り組みを開始しました。

同サービスは、気象庁が平成19年から提供している緊急地震速報と同じもので、市から提供する災害の状況や避難に関する情報を八幡平市内にいるNTTドコモの携帯電話に一齐配信します。

対象エリア(八幡平市内)にいる人は申し込みの必要はありません。月額使用料や通信料などは無料で情報を受信することができます。利用にはエリアメール対応機種が必要で、受信設定の必要な場合があります。

■受信時の表示など 専用の着信音が鳴り、待受画面にメッセージが自動表示されます。

■配信する情報 ①避難準備情報②避難勧告・指示③警戒区域情報④岩手山噴火警報(レベル3未満の火口周辺警報を除く)⑤指定河川洪水警報(はん濫注意情報を除く)⑥土砂災害警戒情報 など

※今後、NTTドコモ以外の携帯電話会社から同様のサービスが提供された場合は、順次配信に向けた整備をする予定です。



八幡平市の誕生に力を注いだ

工藤勝治氏逝去

旧西根町長の工藤勝治氏(北村)が1月9日、慢性呼吸不全などのため亡くなられました。79歳でした。

工藤氏は、昭和48年から62年までの4期14年にわたる旧西根町議会議員を経て、62年9月に旧西根町長に初当選。平成17年9月の合併まで連続5期18年、町勢の発展に貢献しました。

町長在任中は、雨よけほうれんそうが農林水産祭で天皇杯を受賞したほか、「道の駅にしね」のオープン、岩手山登山マラソン全国大会の開催など大きな功績を残しました。

また、西根町・松尾村・安代町合併協議会会長として、八幡平市の誕生に尽力しました。

退任後は、旧3町村の観光協会合併協議会長に就任したほか、18年から22年まで市社会福祉協議会の会長を務めました。その功績が認められ、平成19年の秋の叙勲で、旭日小綬章を受章しました。葬儀は1月12日、西根地区体育館でしめやかに営まれ、市内外から多くの参列者が訪れ、最後の別れを惜しまれました。工藤勝治氏のご冥福を心よりお祈りします。

広報 はちまんたい Feb.2012 No.144

CONTENTS

- 目次
- 02 Zoom Up 人 加藤美南子さん
- 03 Front Topics 携帯サービス「エリアメール」開始 旧西根町長・工藤勝治氏逝去
- 04 Monthly Pick Up 雪の精鋭たちが白い大地で躍動
- 08 特集 認知症でも悪質商法に負けない!
- 12 市民が進めるまちづくり
- 14 NEWS&INFORMATION 永年勤続優良従業員等表彰/全国マスターズスキー大会開催/世界最大のスキーパレード参加者募集
- 15 各課からのHOT LINE 「八幡平市がんばろう岩手基金活用支援事業補助金」交付 ほか
- 16 話題ピックアップ 市交通指導隊・防犯隊初点検/平笠裸参り ほか
- 18 福祉ネットワーク 保健のひろば 環境のみらい 介護のココロ
- 19 まちの企業探検隊 餅ベジット われらスポーツ少年団No.20 松尾相撲スポーツ少年団
- 20 博物館だより 図書館だより
- 21 よろこび おくやみ 人口の動き 交通事故件数など 広報クイズ
- 22 INFORMATION お知らせ
- 24 八幡平いにしへの宝 落合のサワラ



加藤美南子さん

◎profile

昭和17年千葉県船橋市生まれ、神奈川県小田原市育ち。貿易商社など勤務後、結婚を機に専業主婦に。平成7年、神奈川県相模原市から義妹の実家がある旧松尾村に家族で移住。血液型A型のおとめ座。

小説「だんぶり長者の遺産」を出版

探偵気取りの主人公など 登場人物生き生きと描く

昨年末、「だんぶり長者の遺産」北東北の古代伝承を追って」を出版した。昨年秋の県芸術祭児童文学部門で芸術祭賞を受賞した童話「続け、いのち」以来の発表作で、初の長編小説となる。きっかけは3年前、世界無形遺産の大日堂舞楽で知られる大日靈貴神社(秋田県鹿角市)に友人と行き、宮司からだんぶり長者伝説を聞いたことから始まる。伝説は今から1500年ほど前のこと、秋田県から旧安代町(現八幡平)に移り住んだ夫婦が、だんぶり(ト

ンボ)の導きで酒が湧き出る泉を発見して長者になり、その娘が第26代継体天皇の妃・吉祥姫になったという話だ。やがて、老いた両親の死を悲しむ妃のため、継体天皇は大日現社(後の大日堂)大日靈貴神社)を建立。ここには、後に病のため故郷で亡くなった吉祥姫や、母を見舞った直後行方知れずとなった菟皇子(五の宮皇子)が祀られているという。「菟皇子は暗殺されたのでは」と推測し、文献を調べ、構想を固めていった。小説の舞台は現代、長者伝

説に魅かれた主人公の遙菜が、親友と夫とともに、伝説に秘められた謎の解明に挑む。皇子の死という主題でありながら、作品自体は明るく、探偵気取りの主人公をはじめとする登場人物も生き生きと描かれていく。それは都会を離れ、自然豊かなこの地で伸び伸びと暮らす作者の息遣いや、表紙に萩やトンプを描いてくれた91歳になる母のぬくもりなどが、作品全体から伝わってくるからにはかならない。「毎日が楽しい。日常生活から創作の構想も生まれる。長者伝説を題材にしたのは、まちおこしになればという願いから」と語る加藤さん。だんぶり長者を題材とした絵本もほぼ完成するなど、アイデアの泉は枯れそうにない。



今月の表紙

市内では、1月に入り各種スキー大会が開催されました。1月13日から16日まで行われた県中学校スキー大会・女子クロスカントリリーでは、安代中が2走で逆転し連覇を達成しました。【写真=ゴールでガッツポーズを決めるアンカーの土屋正恵選手。関連記事4~7頁】